

I 穀物
1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

【生産量】 2016/17年度 前年度比 ↑ 前月比 ↑

生産量は、EUでフランスの多雨により減少、中国でも減少するものの、米国で冬小麦の単収が史上最高となり増加、ロシアでも春小麦の播種面積拡大に伴い増加すること等から、世界全体では史上最高の738.5百万トンとなる見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で上方修正され、国別には、米国、ロシア、カナダで上方修正、EUで下方修正された。

【消費量】 2016/17年度 前年度比 ↑ 前月比 ↑

消費量は、中国、米国等で飼料用需要増に伴い増加、インドで食料用需要が堅調なため増加すること等から、世界全体では729.3百万トンと4年連続で史上最高を更新する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で上方修正され、国別には、中国、米国、EUで上方修正された。

【貿易量】 2016/17年度 前年度比 ↓ 前月比 ↑

世界全体の貿易量は、前年度より減少し、168.4百万トンとなる見込み。

国別には、輸出国では、米国、EU等で増加し、ウクライナ、カナダで減少する見込み。輸入国では、エジプト等で増加し、EU等で減少する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で上方修正され、輸出国ではウクライナ、米国、ロシア、カナダ、豪州、アルゼンチンで上方修正、EUで下方修正、輸入国ではアルジェリア、トルコ、日本で上方修正された。

【期末在庫量】 2016/17年度 前年度比 ↑ 前月比 ↓

期末在庫量は、前年度より増加し、世界全体で史上最高の253.7百万トンとなる見込み。

国別には、インド、イラン等で在庫が取り崩されるものの、中国、米国、ロシア等で積み増しされる見込み。世界全体の期末在庫率は34.8%と前年度より上昇する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で下方修正され、米国、カナダで上方修正、中国、EU、イランで下方修正された。

図-1 世界の小麦のシェア (2016/17年度)

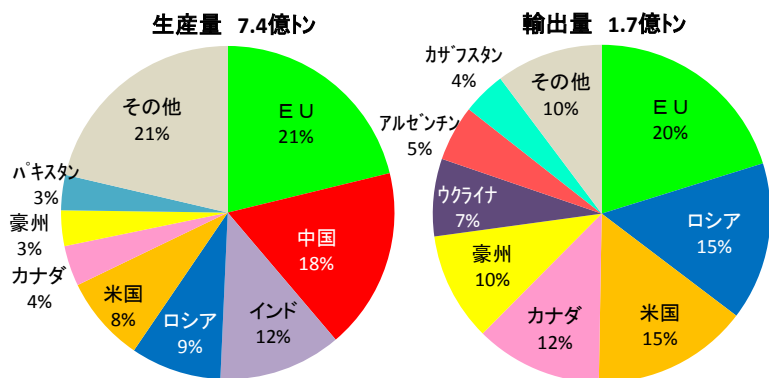


表-1 世界の小麦需給 (米国農務省)

(単位:百万トン)

年度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	727.9	734.6	738.5	7.7	0.5
EU	156.8	160.0	156.5	▲ 1.0	▲ 2.2
中国	126.2	130.2	130.0	-	▲ 0.1
インド	95.9	86.5	88.0	-	1.7
ロシア	59.1	61.0	65.0	1.0	6.5
米国	55.2	55.8	61.5	5.0	10.2
カナダ	29.4	27.6	29.0	0.5	5.1
パキスタン	26.0	25.1	25.3	-	0.8
消費量	704.6	707.5	729.3	13.3	3.1
うち飼料用	130.9	134.3	144.4	10.9	7.5
EU	123.5	128.8	129.3	1.5	0.4
中国	116.5	112.0	117.0	6.5	4.5
インド	93.1	88.6	93.1	-	5.0
ロシア	35.5	37.0	37.5	-	1.4
米国	31.6	31.6	36.3	2.7	14.8
パキスタン	24.5	24.4	24.5	-	0.4
エジプト	19.1	19.2	19.7	-	2.6
貿易量	164.1	169.2	168.4	2.8	▲ 0.5
(輸出)					
EU	35.4	33.0	34.0	▲ 1.5	3.0
ロシア	22.8	25.0	25.5	0.5	2.0
米国	23.3	21.1	25.2	0.7	19.1
カナダ	24.2	22.0	20.5	0.5	▲ 6.8
豪州	16.6	16.4	17.5	0.5	6.7
ウクライナ	11.3	17.0	12.5	1.0	▲ 26.5
アルゼンチン	5.3	8.8	9.0	0.5	2.3
(輸入)					
エジプト	11.1	11.5	12.0	-	4.3
インドネシア	7.5	9.6	9.1	-	▲ 5.2
アルジェリア	7.3	8.1	8.0	0.5	▲ 1.2
EU	6.0	6.7	5.5	-	▲ 17.9
日本	5.9	5.7	5.8	0.1	1.8
ブラジル	5.4	6.0	6.0	-	-
トルコ	5.9	4.3	4.8	0.3	11.6
期末在庫量	217.4	244.5	253.7	▲ 4.1	3.8
中国	76.1	96.8	112.5	▲ 5.5	16.2
米国	20.5	26.7	30.1	1.5	12.6
EU	13.8	18.7	17.4	▲ 1.0	▲ 6.9
インド	17.2	14.5	11.0	-	▲ 24.1
イラン	7.8	8.1	5.9	▲ 0.1	▲ 27.2
ロシア	6.3	6.1	8.6	-	40.8
カナダ	7.1	4.6	4.8	0.7	4.2
期末在庫率	30.9%	34.6%	34.8%	▲ 1.2	0.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」 (12 July 2016)

(2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】(詳細は右表を参照)

＜米国農務省の見通し＞

生産量は、収穫面積が減少するものの冬小麦の単収が史上最高となることから前年度より増加し、61.5百万トンとなる見込み。

消費量は、飼料用需要が増加すること等から前年度より増加し、36.3百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度より増加し、25.2百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率は49.0%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、2015/16年度の輸出量、期末在庫量で上方修正、消費量、輸入量で下方修正、2016/17年度の実産量、消費量、輸出量で上方修正、輸入量で下方修正された。結果として、期末在庫量が上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

米国の小麦生産量の約7割を占める冬小麦は、大平原を中心に各地で栽培され、例年、播種は9～10月頃、収穫は翌年6～7月頃に行われる。

2016/17年度の播種作業は2015年9～11月に行われた。大平原では高温・乾燥、中西部では降雨過多により播種や初期生育が阻害されたが、春季以降は総じて温暖湿潤型の天候に恵まれた。雨がちな天候で収穫開始が遅れたものの6月末には遅れを取り戻した。単収は史上最高が見込まれる一方、たんぱく含有量は平均を下回る模様。

米国農務省(USDA)「Crop Progress」によれば、7月3日時点の主要18州の作柄評価は良/やや良が62%と前年同期(40%)を上回り、7月17日時点の収穫進捗率は76%と、前年同期(72%)、過去5年平均(73%)を上回っている。(図-2)

春小麦は主に北部で栽培され、例年、播種は4～5月頃、収穫は8～9月頃に行われる。2016/17年度は、播種以降早いペースで生育が進展し、6月の乾燥の影響が懸念されるものの、作柄は依然として前年度並みの水準を維持している。

USDA「Crop Progress」によれば、7月17日時点の主要6州の作柄評価は良/やや良が69%と前年同期(70%)をわずかに下回っている。出穂進捗率は96%と、前年同期(95%)、過去5年平均(81%)を上回っている。(図-3)

図-2 冬小麦の収穫進捗率(主要18州)

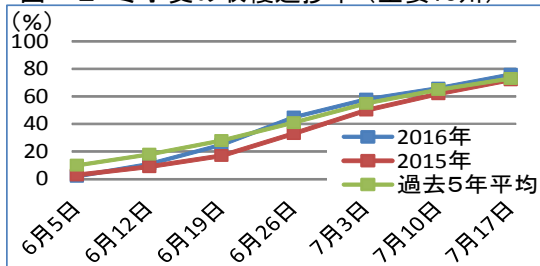
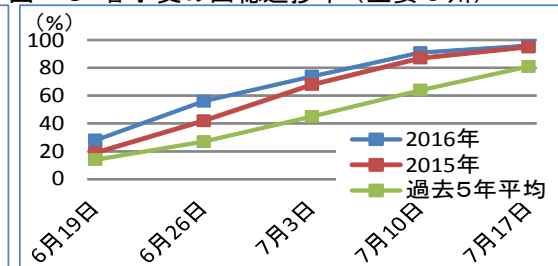


図-3 春小麦の出穂進捗率(主要6州)



資料：USDA「Crop Progress」(2016.7.18)をもとに農林水産省で作成

我が国の輸入先国シェア 1位(2015年数量ベース 50.5%)
世界の生産量シェア 5位(2016/17年度 8.3%)
輸出量シェア 3位(2016/17年度 14.9%)

表-2 米国の小麦需給(市場年度：6月～翌年5月)

(単位：百万トン)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.2	55.8	61.5	5.0	10.2
消費量	31.6	31.6	36.3	2.7	14.8
うち飼料用	3.3	3.6	8.2	2.7	126.9
輸出量	23.3	21.1	25.2	0.7	19.1
輸入量	4.1	3.1	3.3	▲ 0.1	4.8
期末在庫量	20.5	26.7	30.1	1.5	12.6
期末在庫率	37.4%	50.7%	49.0%	▲ 0.3	▲ 1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	18.77	19.06	17.84	0.53	▲ 6.4
単収(t/ha)	2.94	2.93	3.45	0.18	17.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain : World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 July 2016)

写真-1 米国中西部 カンザス州ニュートン
- 収穫作業中の冬小麦畑 - (2016年6月27日撮影)



写真提供：Mark Voth氏

イ カナダ

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、春小麦が減少するものの冬小麦が増加することから前年度より増加し、29.0百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より増加し、8.8百万トンとなる見込み。

輸出量は、生産量が増加するものの前年度からの繰越在庫が少ないことから前年度より減少し、20.5百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率も16.2%に上昇する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、2015/16年度の期末在庫量で上方修正、消費量、輸出量で下方修正、2016/17年度の実生産量、輸出量で上方修正された。結果として、期末在庫量が上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

カナダの小麦生産量の約9割を占める春小麦は、主にプレーリー(アルバータ州南東部からマニトバ州南西部の平原)で栽培され、例年、播種は5月頃、収穫は8～10月頃に行われる。

2016/17年度の播種作業は2016年4月下旬から開始され、6月上旬にほぼ終了した。収益性が高いデュラム小麦の播種面積は前年度を上回るものの、春小麦は豆類・粗粒穀物、デュラム小麦へのシフトにより減少。

米国農務省(USDA)「World Agricultural Production」(2016.7.12)によれば、播種作業が予定より2週間早く終了し、6月のプレーリー西部の土壌水分量は適度な状態が保たれ、発芽や初期生育に望ましい状況となっている。同地域の作柄は、良好の割合が8割を上回っており、史上最高の単収を記録した2013/14年度を上回る良好な状態となっている。

州別の作物報告によれば、サスカチュワン州では、6～7月は総じて好天に恵まれたが、一部で大雨・強風・降雹による斑点病や根腐れ等の病害が発生している模様。7月4日時点で春穀物の41%が幼穂形成期、34%が出穂期、2%が乳熟期を迎え、7月11日時点の作柄は、良/やや良が春小麦で92%、デュラム小麦で93%となっている。アルバータ州では、7月12日時点で出穂期～開花期を迎え、作柄は、良/やや良が春小麦で81.7%、デュラム小麦で74.7%。マニトバ州では、一部ほ場が雷雨に見舞われ冠水しているが、総じて好天に恵まれて生育が進展しており、7月18日時点で大部分が開花期～登熟期を迎えている。

冬小麦は主に東部のオンタリオ州で栽培され、2016/17年度の播種作業は2015年9月頃から行われ、主産地の播種条件が良好であったこと等により、カナダ全体の播種面積は前年度比24.5%増の69.8万ヘクタールとなった。生育は総じて順調で、6月以降の高温乾燥型の天候を受けて登熟が進展し、6月末から収穫作業が開始されている。

【貿易情報・その他】

カナダ穀物協会(CGC)「Grain Statistics Weekly」によれば、2015/16年度の実輸出量累計は、2016年7月10日時点で普通小麦15.3百万トン(対前年同期比7.6%減)、デュラム小麦4.1百万トン(同9.6%減)となっている。

（我が国の輸入先国シェア2位（2015年数量ベース 29.2%）
世界の生産量シェア 6位（2016/17年度 3.9%）
輸出量シェア 4位（2016/17年度 12.2%）

表－3 カナダの小麦需給（市場年度：8月～翌年7月）

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	29.4	27.6	29.0 (28.9)	0.5	5.1
消費量	9.1	8.6	8.8 (8.4)	-	2.3
うち飼料用	3.8	3.4	3.6 (3.7)	-	5.9
輸出量	24.2	22.0	20.5 (20.8)	0.5	▲ 6.8
輸入量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	-
期末在庫量	7.1	4.6	4.8 (3.7)	0.7	4.2
期末在庫率	21.3%	14.9%	16.2% (12.5%)	2.1	1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.48	9.60	9.30 (9.48)	▲ 0.15	▲ 3.1
単収(t/ha)	3.10	2.88	3.12 (3.05)	0.10	8.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 July 2016)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(17 June 2016)

写真－2 カナダ西部 アルバータ州（2016年7月1日撮影）

－6月末の大雨・降雹の被害もなく、開花期を迎えた春小麦－



写真提供：Gerry Good氏

ウ 豪州

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、前年度より増加し、25.5百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より増加し、7.5百万トンとなる見込み。

輸出量は、生産増に伴い前年度より増加し、17.5百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率も26.2%に上昇する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、2014/15年度の実生産量、期末在庫量で上方修正、2015/16年度の実在庫量で上方修正、輸出量で下方修正、2016/17年度の実生産量、輸出量で上方修正された。結果として、期末在庫量が上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

豪州の小麦は、主に西部や南東部で栽培され、播種は例年4～6月頃、収穫は10月～12月頃に行われる。

2016/17年度の播種作業は2016年4月から開始され、現地調査会社によれば、6月末時点の播種進捗率は、西オーストラリア州、南オーストラリア州及びビクトリア州で100%、ニューサウスウェールズ州及びクイーンズランド州で95%とほぼ終了した。

豪州資源経済科学局(ABARES)「Australian crop report」(2016.6.15)によれば、生産量は前年度を4.9%上回る25.4百万トンとなる見込み。これは、高収益が見込まれるなたね、オーツ麦、豆類への転作により播種面積が前年度を0.6%下回るものの、播種時期に降雨に恵まれて作柄が良好なことから単収が5.8%上回るため。

豪州気象局(BOM)「Climate Outlooks」(2016.6.30)によれば、7～9月の降水量は、南東部では平年を上回る確率が80%、西部では70%であり、気温は大部分の小麦産地で平年を下回る見込み。また、同局の「ENSO- Wrap Up」(2016.7.19)によれば、2016年中にラニーニャ現象が発生する確率は50%となっている。

米国農務省(USDA)「World Agricultural Production」(2016.7.12)及び「Wheat Outlook」(2016.7.14)は、5月以降小麦主産地で降水量が平年を上回っていることや、今後も十分な降水量と冷涼な気温に恵まれる見込みであることから、単収を前年度比4.2%増の1.99トン/ヘクタールに、生産量を前年度比4.1%増の25.5百万トンに上方修正した。

現地調査会社によれば、6月初旬から南オーストラリア州やビクトリア州でアブラムシの大量発生に関する報道があったものの、6月末時点では被害の全容が解明されておらず、生産量予測を下方修正するには至っていない模様。

【貿易情報・その他】

国際穀物理事会(IGC)「Grain Market Report」(2016.5.26)によれば、2016/17年度の実輸出量は、カナダで生産減に伴い東アジア向け輸出が減少することから、豪州からの輸出が伸びると見られ、前年度(17.0百万トン)を上回る17.8百万トンとなる見込み。

我が国の輸入先国シェア 3位 (2015年数量ベース 16.3%)
世界の生産量シェア 7位 (2016/17年度 3.5%)
輸出量シェア 5位 (2016/17年度 10.4%)

表-4 豪州の小麦需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はABARES	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	23.9	24.5	25.5 (25.4)	0.5	4.1
消費量	7.2	7.2	7.5 (…)	-	3.2
うち飼料用	3.8	3.8	4.0 (…)	-	5.3
輸出量	16.6	16.4	17.5 (17.2)	0.5	6.7
輸入量	0.2	0.2	0.2 (…)	-	-
期末在庫量	4.8	5.9	6.6 (…)	0.9	11.8
期末在庫率	20.3%	24.8%	26.2% (…)	3.3	1.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	12.38	12.80	12.80 (12.72)	▲ 0.20	-
単収(t/ha)	1.93	1.91	1.99 (2.00)	0.07	4.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 July 2016)
ABARES 「Agricultural commodities」(21 June 2016) (※ABARESは作付面積)

写真-3 南オーストラリア州 ブロートン(2016年6月30日撮影)
一順調に生長し、節間伸長期を迎える小麦畑(4月27日播種)一



写真提供：Australian Crop Forecasters

エ EU

【需給状況】（詳細は右表を参照）

＜米国農務省の見通し＞

生産量は、収穫面積が増加するものの、フランスで多雨により減産となること等から前年度より減少し、156.5百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より増加し、129.3百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度から増加し、34.0百万トンとなる見込み。

輸入量は、前年度より減少し、5.5百万トンとなる見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も10.7%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、消費量で上方修正、生産量、輸出量で下方修正された。結果として、期末在庫量が下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

EUの小麦生産量の大部分を占める冬小麦は、フランス、ドイツ等を中心に各地で栽培され、例年、播種は10～11月頃、収穫は7～8月頃に行われる。

2016/17年度の播種作業は2015年8月から11月半ばに行われた。欧州では冬季及び春季は総じて温暖湿潤型の天候となっていたところ、2016年5月下旬以降、フランス、スペイン、ルーマニア及びハンガリー等で平年を上回る降雨が観測され、スペイン、ルーマニア及びハンガリーでは適期の降雨となり豊作が見込まれるものの、フランスでは単収低下や品質劣化が懸念されている。

欧州委員会のMARS報告「Crop monitoring in Europe」(2016.6.20)によれば、6月中旬時点では大部分で開花期～登熟期を迎え、南部の一部ではデュラム小麦の収穫が開始されている。

フランス農産物統計局(AgriMer)によれば、同国の軟質小麦の作柄評価は、5月に多雨に見舞われたことから6月以降下がり続けており、5月30日時点では良/やや良の割合が81%であったところ、7月11日時点では前週(59%)及び前年同期(76%)を大きく下回る49%となった。また、既に収穫が開始されているものの、同日時点の収穫進捗率は7%と前年同期(31%)を大きく下回っている。

国際穀物理事会(IGC)「Grain Market Indicators」(2016.7.20)によれば、フランスの生産者からは、単収と品質が予想より低く、特に容積重が低くなっているとの報告がある。一方、ドイツでは降雨予報が懸念されているものの、依然として総じて良好な収穫が見込まれている。

【貿易情報・その他】

欧州委員会「Export and import commitments」によれば、2015/16年度(2015年7月～)の2016年6月末日時点の小麦輸出量累計は、史上最高となった前年度(33.44百万トン)をわずかに下回る33.40百万トンとなった。うち、軟質小麦(小麦粉を含む)は32.5百万トン(対前年度同期比0.1%増)、デュラム小麦は0.9百万トン(同8.0%減)となった(図-4)。

我が国の輸入先国シェア5位 (2015年数量ベース 1.8%)
 世界の生産量シェア 1位 (2016/17年度 21.2%)
 輸出量シェア 1位 (2016/17年度 20.2%)

表-5 EUの小麦需給(市場年度:7月～翌年6月)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	156.8	160.0	156.5 (153.4)	▲ 1.0	▲ 2.2
消費量	123.5	128.8	129.3 (130.8)	1.5	0.4
うち飼料用	54.0	59.0	59.0 (57.6)	1.5	-
輸出量	35.4	33.0	34.0 (30.3)	▲ 1.5	3.0
輸入量	6.0	6.7	5.5 (5.5)	-	▲ 17.9
期末在庫量	13.8	18.7	17.4 (14.7)	▲ 1.0	▲ 6.9
期末在庫率	8.7%	11.6%	10.7% (9.1%)	▲ 0.6	▲ 0.9

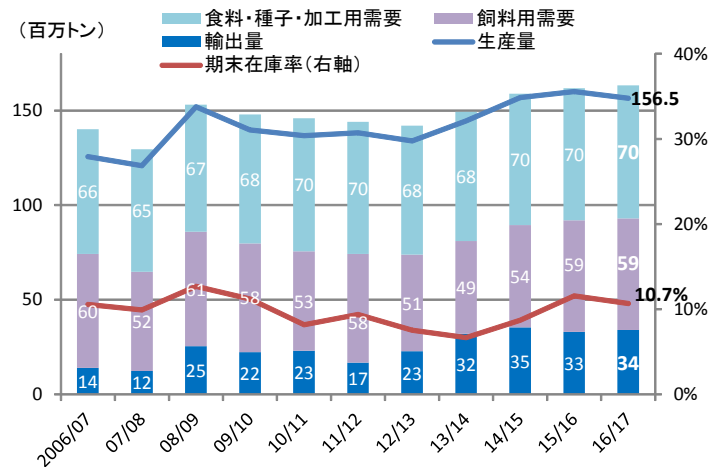
(参考)

収穫面積(百万ha)	26.73	26.76	26.86 (26.70)	0.05	0.4
単収(t/ha)	5.87	5.98	5.83 (5.70)	▲ 0.04	▲ 2.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「Grain: World Markets and Trade」、
 「World Agricultural Production」(12 July 2016)
 EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(30 June 2016)

図-4 EUの小麦需給の推移

-2016/17年度は、生産が減少する中、消費、輸出ともに増加し、
 期末在庫率は低下-



資料: 米国農務省(USDA)「PS&D」をもとに農林水産省で作成。

オ 中国

(世界の生産量シェア 2位 (2016/17年度 17.6%))
表-6 中国の小麦需給 (市場年度: 7月~翌年6月)

(単位:百万トン)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	126.2	130.2	130.0 (126.0)	-	▲ 0.1
消費量	116.5	112.0	117.0 (115.6)	6.5	4.5
うち飼料用	16.0	10.5	15.0 (15.0)	5.5	42.9
輸 出 量	0.8	0.8	0.8 (0.4)	▲ 0.2	-
輸 入 量	1.9	3.3	3.5 (3.0)	0.3	6.1
期末在庫量	76.1	96.8	112.5 (89.6)	▲ 5.5	16.2
期末在庫率	64.9%	85.8%	95.5% (77.2%)	▲ 10.3	9.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.07	24.14	24.30 (24.30)	-	0.7
単収(t/ha)	5.24	5.39	5.35 (5.19)	-	▲ 0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 July 2016)
IGC 「Grain Market Report」(1 July 2016)

【生育進捗状況及び作柄】

中国の小麦生産量の約9割を占める冬小麦は、主に華北平原で栽培され、例年、播種は10~11月頃、収穫は翌年5~6月頃に行われる。

2016/17年度の播種作業は2015年9~11月頃に行われた。一部産地で春季の乾燥や登熟~収穫期の大雨等に見舞われたものの、大部分の産地では総じて温暖湿潤型の天候に恵まれて順調に生育が進展。収穫は2016年5月頃から開始され、6月下旬にほぼ終了した。

春小麦は主に北部で栽培され、例年、播種は5~6月頃、収穫は10~11月頃に行われる。2016/17年度の播種作業は2016年3~5月に行われた。中国中央气象台によれば、7月16日現在、西北地区で開花期~登熟期、華北地区で節間伸長期~登熟期、東北地区で開花期~乳熟期を迎えている。

【貿易情報・その他】

米国農務省「Wheat Outlook」(2016.7.14)によれば、主産地(安徽省、河南省、河北省、江蘇省)において、登熟期の4~5月と収穫期の6月に大雨に見舞われたため品質が低下し、生産量に占める飼料用の割合が上昇すると見られる。なお、赤カビや穂発芽といった被害が発生した小麦は、食用となる製粉用には適さないため、大幅に値引きされて飼料用として販売されることとなる。

中国税関(海関)統計によれば、2016年1~6月の小麦輸入量累計は177.5万トン(対前年同期比27.3%増)となった。国別内訳は、豪州80.9万トン(シェア45.6%)、カナダ49.2万トン(同27.7%)、米国25.3万トン(同14.3%)、カザフスタン22.1万トン(同12.4%)等。

カ インド

(世界の生産量シェア 3位 (2016/17年度 11.9%))
表-7 インドの小麦需給 (市場年度: 4月~翌年3月)

(単位:百万トン)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	95.9	86.5	88.0 (90.0)	-	1.7
消費量	93.1	88.6	93.1 (92.4)	-	5.0
うち飼料用	4.5	4.2	4.5 (4.0)	-	7.1
輸 出 量	3.4	1.1	0.4 (0.3)	-	▲ 62.3
輸 入 量	0.1	0.5	2.0 (1.0)	-	325.5
期末在庫量	17.2	14.5	11.0 (12.8)	-	▲ 24.1
期末在庫率	17.8%	16.2%	11.8% (13.8%)	-	▲ 4.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.47	31.47	29.80 (29.30)	-	▲ 5.3
単収(t/ha)	3.15	2.75	2.95 (3.07)	-	7.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 July 2016)
IGC 「Grain Market Report」(1 July 2016)

【生育進捗状況及び作柄】

インドの小麦は主に北部で栽培され、例年、播種は10~12月頃、収穫は翌年4~5月頃に行われる。

2016/17年度の播種は2015年10月中旬~2016年1月末頃に行われた。モンスーン期到来の遅れに伴う前作(米)の収穫遅延により播種作業の開始が遅れて播種面積が減少するとともに、乾燥型の天候により初期生育が阻害されたものの、シーズン後半には比較的冷涼湿潤型の天候となり作柄が改善した。収穫は5月上旬にほぼ終了した。

インド農業省(2016.5.9)によれば、生産量は94.0百万トンと、悪天候に見舞われた前年度(86.5百万トン)を上回る見込み。

【貿易情報・その他】

インドは、7月1日時点の政府在庫に関し、政府備蓄3.0百万トン、緩衝在庫24.6百万トンの計27.6百万トンを目標としているところ、インド食料公社(FCI)データによれば、2016年7月1日時点の政府在庫量は30.2百万トンと同目標を上回っている(前年同期39.8百万トン)。

2016年2月15日、インド消費者食料公共配給省は、2016/17年度の小麦の政府買入目標数量について、前年度の買入数量(28.1百万トン)を上回る30.0百万トンと発表。しかしながら、FCIデータによれば、2016年6月30日時点の買入数量は22.9百万トンと、前年同期(27.6百万トン)を下回っている。

インド財務省は、小麦の輸入関税に関し、2015年10月に10%から25%に引き上げ、2016年3月には当初の期限(2016年3月31日)を2016年6月30日まで延長する旨公示していたところ、6月17日、6月30日以降も期限を定めずに25%の関税を継続する旨を公示。

キ ロシア

【需給状況】（詳細は右表を参照）

＜米国農務省の見通し＞

生産量は、冬小麦の単収が上昇するとともに春小麦の播種面積が拡大することから、史上最高の65.0百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より増加し、37.5百万トンとなる見込み。

輸出量は、生産増に伴い史上最高の25.5百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率も13.7%に上昇する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、2015/16年度の輸出量で上方修正、期末在庫量で下方修正、2016/17年度の実産量、輸出量で上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

ロシアの小麦生産量の約7割を占める冬小麦は、主に欧州に近い南部や西部で栽培され、例年、播種は8～10月頃、収穫は翌年7～8月頃に行われる。

2016/17年度の播種作業は2015年8月末から10月末に行われ、同国の全生産量の4割を占める南連邦管区及び北カフカス連邦管区では、温暖湿潤型の天候に恵まれて作柄は非常に良好。中央連邦管区及び沿ヴォルガ連邦管区では、2015年秋の乾燥で発芽や初期生育が阻害されたものの、春の降雨と平年を上回る気温を受けて初期生育の遅れを取り戻し、作柄が改善。ロシア気象センターによれば、6月末には登熟期～成熟期を迎え、南部では収穫が開始されている。

春小麦は主にシベリア連邦管区及び沿ヴォルガ連邦管区等で栽培され、例年、播種は4～5月頃、収穫は8～9月頃に行われる。2016/17年度の播種作業は2016年3月下旬～6月上旬に行われ、ロシア農業省によれば、6月15日時点の播種面積は13.6百万ヘクタール(対前年度比2.3%増)。ロシア気象センターによれば、6月末には主産地で分げつ期～節間伸長期、早いものは出穂期を迎えている。

【貿易情報、その他】

ロシア連邦税関局によれば、2015/16年度(2015年7月～)の小麦輸出量累計は、2016年5月末時点で23.4百万トン(対前年度同期比14.5%増)となった。国別内訳は、エジプト5.9百万トン(シェア25.1%)、トルコ3.0百万トン(同12.8%)、イラン1.4百万トン(同6.1%)等。

また、7月11日公表の速報値では、2015/16年度の穀物全体の輸出量累計は、6月末までで前年度を11.1%上回る33.9百万トン、うち小麦は24.6百万トン。

2016年6月25日、プーチン大統領の北京訪問に際し、ロシアの有限会社「ザバイカリスク穀物ターミナル」と中国の大手農業設備メーカー「牧羊」は、両国の国境にあるザバイカリスク鉄道駅における穀物ターミナル建設に関する覚書に署名。レビン・ロシア農業次官によれば、第1期の年間処理能力400万トンのターミナル建設は今年9月に開始予定(1年～1年半で完成予定)。両国ではレール幅が異なるが、同ターミナルではこの問題を技術的に解決できるとされている。この他、2025年までに処理能力が2倍に拡張され合計一時保管能力8万トンの16基のサイロやシベリア等の各地に29基の穀物エレベータが建設される予定。

7月6日、トカチョフ農相は、遅かれ早かれ小麦輸出関税を廃止するが、収穫量や穀物在庫量を考慮する必要があるため、検討開始は今年秋以降と発言。7月8日付の同省プレスリリースによれば、7月18日以降に会議の開催を計画。

（世界の生産量シェア 4位 (2016/17年度 8.8%)
輸出量シェア 2位 (2016/17年度 15.1%)）

表－8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

(単位:百万トン)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	59.1	61.0	65.0 (63.0)	1.0	6.5
消費量	35.5	37.0	37.5 (37.2)	-	1.4
うち飼料用	13.0	14.0	14.5 (14.6)	-	3.6
輸出量	22.8	25.0	25.5 (24.8)	0.5	2.0
輸入量	0.3	0.8	0.5 (0.5)	-	▲ 37.5
期末在庫量	6.3	6.1	8.6 (7.9)	-	40.8
期末在庫率	10.8%	9.9%	13.7% (12.8%)	▲ 0.1	3.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	23.64	25.58	26.00 (25.00)	-	1.6
単収(t/ha)	2.50	2.39	2.50 (2.52)	0.04	4.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 July 2016)
IGC 「Grain Market Report」(1 July 2016)

写真－4 ロシア南部ヴォルゴグラード州エランスキー地区
－完熟期を迎えた冬小麦畑－ (2016年7月5日撮影)



ク ウクライナ

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、前年度より減少し、25.0百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度並みの12.5百万トンとなる見込み。

輸出量は、生産減に伴い前年度より減少し、12.5百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率も12.2%に上昇する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、2015/16年度の輸出量で上方修正、期末在庫量で下方修正、2016/17年度の実産量、輸出量で上方修正された。結果として、期末在庫量が下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

ウクライナの小麦生産量の95%以上を占める冬小麦は、主に南部や中央部で栽培され、播種は例年8～9月頃、収穫は7～8月頃に行われる。

2016/17年度の播種作業は、2015年9月に開始された。しかしながら、乾燥のため作業が遅延し、収穫面積は前年度比11.5%減の6.3百万ヘクタールとなる見込み。

播種作業の遅れに伴い発芽や初期生育も遅れ気味となり、一部産地では生育不足のまま12月末の気温低下を受けて休眠入りしたが、2016年3月上旬以降は温暖な気候が続き、作柄が改善した。5月下旬から6月末にかけて天候が不安定で雹や突風を伴う強い雨が散発的に観測され、南部、北部及び中央部の一部では倒伏が見られた他、南部では病害や虫害が発生したが、6月下旬時点の作柄は総じて良好/並となっている。生育進捗は、国内全域では乳熟期～黄熟期、南部では完熟期に入り、6月下旬から収穫作業が開始されている。

ウクライナ農業政策食料省によれば、7月11日時点の収穫面積は68.8万ヘクタール、収穫量は252.4万トン、平均単収は3.67トン/ヘクタールとなっている。

米国農務省「World Agricultural Production」(2016.7.12)は、春以降は天候が好転したため単収は3.97トン/ヘクタールと史上最高の1990/91年度の4.01トン/ヘクタールに次ぐ高単収になると予測。生産量については、収穫面積減に伴い前年度を下回るものの前月から1.0百万トン上方修正し、25.0百万トンと予測。

【貿易情報・その他】

ウクライナ税関によれば、2015/16年度(2015年7月～)の小麦輸出量累計は、2016年5月末時点で対前年度同期比48.3%増の15.6百万トンとなった。国内訳は、エジプト2.4百万トン(シェア15.5%)の他、タイ2.1百万トン(同13.4%)、インドネシア1.4百万トン(同9.2%)、バングラデシュ1.2百万トン(同7.9%)、韓国1.1百万トン(同7.2%)等のアジア向けも多い。

7月12日、農業政策食料省は、穀物輸出業者との間で2016/17年度の穀物輸出量に関する覚書を締結した。同覚書は国内の食料安全保障を確保し、輸出規制を行う事態を招かないよう、前年度に引き続き締結されるもの。なお、輸出予定量は9月15日までに合意され、付属文書に記載される予定。

我が国の輸入先国シェア 4位 (2015年数量ベース 2.1%)
世界の生産量シェア 9位 (2016/17年度 3.4%)
輸出量シェア 6位 (2016/17年度 7.4%)

表-9 ウクライナの小麦需給 (市場年度: 7月～翌年6月)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	24.8	27.3	25.0 (23.0)	1.0	▲ 8.3
消費量	12.0	12.5	12.5 (12.4)	-	-
うち飼料用	4.0	4.5	4.5 (4.0)	-	-
輸出量	11.3	17.0	12.5 (10.5)	1.0	▲ 26.5
輸入量	0.0	0.1	0.1 (...)	-	-
期末在庫量	5.2	3.0	3.1 (3.9)	▲ 1.2	1.7
期末在庫率	22.3%	10.2%	12.2% (16.8%)	▲ 5.5	2.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	6.30	7.12	6.30 (6.00)	▲ 0.10	▲ 11.5
単収(t/ha)	3.93	3.83	3.97 (3.83)	0.22	3.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 July 2016)
IGC 「Grain Market Report」(1 July 2016)

写真-5 ウクライナ南部 オデッサ州 (2016年7月7日撮影)
-完熟期を迎えた冬小麦畑。一部で既に収穫が始まっている-



ケ カザフスタン

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、収穫面積が減少するとともに単収が低下することから前年度より減少し、13.0百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度並みの6.9百万トンとなる見込み。

輸出量は、生産減に伴い前年度より減少し、7.0百万トンとなる見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も13.2%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

カザフスタンの小麦生産量の9割以上を占める春小麦は、主に北部で栽培され、例年、播種は5～6月頃、収穫は8～10月頃に行われる。

2016/17年度の播種作業は、南部で2016年3月から、主産地の北部では4月下旬から開始され、6月中旬に終了した。カザフスタン農業省によれば、6月15日時点の麦類全体（小麦、ライ麦、大麦、えん麦等）の播種面積は14.5百万ヘクタールと、前年同期（11.7百万ヘクタール）を上回っている。

カザフスタン国家気象局によれば、播種作業は5月初旬～中旬の降雨により南東部や西部の一部で停滞し、6月上旬には主産地の北部でも強い雨を伴う短時間の降雨により一部で作業が停滞した。5～6月は比較的温暖で短期間の降雨もあったことから作物の生長には好適となり、そのことが雑草の繁殖にもつながって病害や虫害が発生しているものの、作柄は総じて良好/並となっている。

6月末現在、主産地の北部では第三葉形成期を迎え、アクモラ州及びコスタナイ州の作柄は総じて良好/並、北カザフスタン州では総じて良好、一部で並みとなっている。一方、播種が早かった南部のクズロルダ州では登熟期、アルマトイ州では出穂期～登熟期を迎えている。

【貿易情報・その他】

カザフスタン財務省税関監督委員会によれば、2015/16貿易年度（2015年7月～）の小麦輸出量累計（関税同盟加盟国（ロシア、ベラルーシ）向けを除く）は、2016年5月末時点で331.3万トン（対前年度同期比16.5%増）となった。国内訳は、ウズベキスタン137.4万トン（シェア41.5%）、タジキスタン84.8万トン（同25.6%）と中央アジア諸国が上位を占めており、次いでイラン27.6万トン、中国26.0万トン、アフガニスタン22.6万トン等となった。

2016年7月8日、カザフスタン農業省は、速報値として、2015/16貿易年度の穀物全体の輸出量について、計830万トンと予想を100万トン上回ったと発表。なお、これまでの最高記録は、2011/12貿易年度の1,200万トン。

カザフスタン国家経済省経済委員会によれば、2016年7月1日時点の在庫量は310.1万トンと前年同期（468.6万トン）を下回った。うち製粉用は285.7万トン（前年同期423.3万トン）、飼料用は17.8万トン（同35.6万トン）、種子用は0.7万トン（同9.6万トン）。

（世界の輸出量シェア 8位（2016/17年度 4.2%））

表-10 カザフスタンの小麦需給（市場年度：9月～翌年8月）

（単位：百万トン）

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	13.0	13.8	13.0 (13.5)	-	▲ 5.4
消費量	6.8	6.9	6.9 (6.7)	-	-
うち飼料用	2.0	2.1	2.1 (2.0)	-	-
輸 出 量	5.5	7.5	7.0 (6.5)	-	▲ 6.7
輸 入 量	0.6	0.1	0.1 (…)	-	▲ 25.0
期末在庫量	3.3	2.7	1.8 (3.2)	-	▲ 31.5
期末在庫率	26.3%	18.5%	13.2% (24.0%)	-	▲ 5.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.92	11.57	11.00 (12.00)	-	▲ 4.9
単収(t/ha)	1.09	1.19	1.18 (1.13)	-	▲ 0.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 July 2016)
IGC 「Grain Market Report」(1 July 2016)

写真-6 カザフスタン北部コスタナイ州（2016年7月9日撮影）

—出穂期を迎えた春小麦畑。適度な土壌水分量で作柄は概ね良好—



コ アルゼンチン

【需給状況】（詳細は右表を参照）

＜米国農務省の見通し＞

生産量は、輸出規制撤廃に伴う生産意欲拡大により収穫面積が増加することから前年度より増加し、15.0百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より増加し、6.3百万トンとなる見込み。

輸出量は、輸出規制撤廃に伴い前年度より増加し、9.0百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より減少し、期末在庫率も6.1%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、2015/16年度の期末在庫量で上方修正、輸出量で下方修正、2016/17年度の前産量、輸出量で上方修正された。結果として、期末在庫量が上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

アルゼンチンの小麦は、主に南部のブエノスアイレス州、コルドバ州、サンタフェ州等で栽培され、例年、播種は5～7月頃、収穫は11月～翌年1月頃に行われる。

2016/17年度の播種作業は、2016年4月下旬の大雨による前作(大豆)の収穫遅延に伴い作業の開始が遅れ、2016年5月中旬から開始された。

ブエノスアイレス穀物取引所週報(2016.7.14)によれば、コルドバ州南部、ブエノスアイレス州南部・南東部では、土壌水分過多のため道路事情が悪くほ場にアクセスできない等の理由で引き続き播種作業が遅れており、7月14日時点のアルゼンチン全体の播種面積は3.5百万ヘクタールに留まり、進捗率は79.3%と前年度を9.7ポイント下回っている。また、同取引所は、播種作業の遅延を理由に播種面積予想を従来の4.5百万ヘクタールから4.4百万ヘクタールに下方修正したが、依然として前年度(3.6百万ヘクタール)を22.2%上回る水準となっている。なお、8月まで播種が可能なブエノスアイレス州南部では、播種作業の遅れに伴い、より栽培期間が短い品種に切り替える動きも出ている。

国際穀物理事会(IGC)「Grain Market Report」(2016.7.1)によれば、播種面積は収益性の改善や小麦を輪作体系に再び組み入れようとする動きを受けて急拡大し、また、生産者がより良質な種子やより多くの肥料を投入して高品質の小麦生産に意欲的であるため、生産量は前年度比29.2%増の14.6百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】

2015年12月17日、アルゼンチン政府は、農産物の輸出税を撤廃・引下げの旨を公示し、小麦輸出税(23%)は撤廃された。また、12月29日には穀物・油糧種子の輸出登録制度(ROE)も廃止されたことから、2016年以降の輸出量は前年に比べて増加している。

アルゼンチン農産物省農畜食糧衛生品質管理センター(SENASA)によれば、2016年1～5月の小麦輸出量累計は563.6万トン(対前年同期比142.0%増)となった。国別内訳は、隣国ブラジルが178.3万トン(シェア31.6%)となっている他、インドネシア92.7万トン(同16.4%)、タイ68.1万トン(同12.1%)、韓国60.4万トン(同10.7%)、ベトナム43.1万トン(同7.6%)等とアジア向けも多い。

(世界の輸出量シェア 7位 (2016/17年度 5.3%))

表-11 アルゼンチンの小麦需給(市場年度:12月～翌年11月)
(単位:百万トン)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	14.0	11.3	15.0 (14.6)	0.5	32.7	
消費量	6.4	6.2	6.3 (6.3)	-	2.4	
うち飼料用	0.3	0.1	0.1 (1.0)	-	-	
輸出量	5.3	8.8	9.0 (8.4)	0.5	2.3	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	-	
期末在庫量	4.9	1.2	0.9 (1.4)	0.2	▲24.4	
期末在庫率	41.8%	8.2%	6.1% (9.4%)	1.1	▲2.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	4.96	3.77	5.00 (5.20)	0.20	32.6	
単収(t/ha)	2.82	3.00	3.00 (2.81)	▲0.02	-	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 July 2016)
IGC 「Grain Market Report」(1 July 2016)

写真-7 アルゼンチン ブエノスアイレス州(2016年7月11日撮影)

—多雨で2～3週間播種が遅れたものの、無事発芽した小麦畑—



写真提供: Edgrado Adrián Gil氏